

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	専門演習Ⅱ		
担当者(Instructors)	伊藤 龍仁	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

<p>■ 授業の目的と概要 (Course purpose/outline)</p> <p>本演習は、2年間のゼミ活動を通して日本の子どもの福祉と社会的養育の現状・課題を理解し、専門職として子どもや家族を支援するための資質と人間性の向上および基礎的な実践力を育成することが目標である。</p>

<p>■ 授業形態・授業の方法 (Class form)</p>	
授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	ディスカッション及びディベート並びにグループワークを取り入れた演習活動を展開するとともに、児童福祉施設等におけるフィールドワークを実施する。新型コロナウイルス感染状況により一部のディスカッションをオンライン上で実施するほか、フィールドワークをオンライン上の個人研究報告に変更する可能性がある。

<p>■ 各回のテーマとその内容 (Each theme and its contents)</p>			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	夏休みの活動報告会 後期ゼミ活動の予定確認	各自の実施した夏休みの活動報告会をする。後期のゼミの活動予定を確認する。	<input type="checkbox"/>
第2回	個人・ゼミ単位の後期活動計画 フィールドワーク①（或いは大学祭・個人研究）企画検討	個人・ゼミ単位の後期活動計画と役割分担を明確化する。ディスカッションによりフィールドワーク①（大学祭・研究活動）の企画を検討する。	<input type="checkbox"/>
第3回	フィールドワーク①企画決定 プログラム化・役割分担・事前学習	フィールドワーク①（大学祭・研究活動）の企画を決定する。そしてプログラム化と役割分担、必要な事前学習に取り組む。	<input type="checkbox"/>
第4回	フィールドワーク① 準備作業①物資購入・練習等	フィールドワーク①（大学祭・研究活動）の準備作業に取り組む。	<input type="checkbox"/>
第5回	フィールドワーク① 準備作業②リハーサル・最終確認	フィールドワーク①（大学祭・研究活動）のリハーサルまたは最終確認をする。	<input type="checkbox"/>
第6回	フィールドワーク①実施	フィールドワーク①（大学祭・研究活動）を実施する。	<input type="checkbox"/>
第7回	フィールドワーク①振り返り	ディスカッションによるフィールドワーク①（大学祭・研究活動）の報告と振り返りをした後に、教員が全体の講評を伝える。	<input type="checkbox"/>
第8回	フィールドワーク②（或いは個人研究②）企画検討・決定 プログラム化・役割分担・事前学習	ディスカッションによりフィールドワーク②（研究活動）の企画を検討して決定する。そしてプログラム化と役割分担、必要な事前学習に取り組む。	<input type="checkbox"/>
第9回	フィールドワーク② 準備作業①物資購入・練習等	フィールドワーク②（研究活動）の準備作業に取り組む。	<input type="checkbox"/>
第10回	フィールドワーク② 準備作業②リハーサル・最終確認	フィールドワーク②（研究活動）の準備作業と最終確認をする。	<input type="checkbox"/>
第11回	フィールドワーク②実施	フィールドワーク②（研究活動）を実施する。	<input type="checkbox"/>
第12回	フィールドワーク②振り返り	ディスカッションによりフィールドワーク②（研究活動）の振り返りをした後に、教員が企画全体の講評を伝える。	<input type="checkbox"/>
第13回	フィールドワーク①②総括	ゼミ生全員で分担しながらフィールドワーク①②（大学祭・研究活動）の総括としての報告書または報告動画を作成する。	<input type="checkbox"/>
第14回	問題意識と課題の確認 ゼミ生交流企画	1年間のフィールドワーク（大学祭・研究活動）を総括した上での各自の問題意識と課題について発表し合う。 1年間のゼミ活動の打ち上げとしての交流会を企画する。	<input type="checkbox"/>
第15回	1年間の総括 まとめ、専門演習Ⅲに向けて	ゼミとして取り組んだ1年間のフィールドワーク等の総括と評価を行う。次年度の専門演習Ⅲに向けての課題と抱負をプレゼンテーションさせながら、各自の目標を確認させる。	<input type="checkbox"/>

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前学習のテーマに基づくプレゼンテーションや課題の準備、実施するフィールドワークや研究活動に関連する語句、専門的知識等に関する下調べと、課題に関する下調べを概ね2時間行い、事後学習としてゼミ活動を振り返る800字程度のレポート作成或いは報告動画の作成を概ね2時間行い課題提出する。事前・事後学習を合わせて4時間以上取り組む。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

授業時間内に口頭でフィードバックする他、振り返り、報告書等のレポート課題に関するフィードバックは授業用オンライン・プラットフォームやメールを活用して行う。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◇ 2019子ども発達DP1	フィールドワークの経験を積み重ねながら小学校教員・幼稚園教員・保育士になるための資格に必須の知識と基礎的・実践的な技能を身につけることができる。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019子ども発達DP2	フィールドワークの経験を積み重ねながら現代の福祉・教育現場に存在する多様な問題や課題に正面から向き合うことのできる力強い思考力・判断力を習得できる。
主体性	◆ 2019子ども発達DP3	フィールドワークの経験を積み重ねながら小学校・幼稚園・児童福祉施設等での教育・養護・保育に主体的協働的に携わることができる幅広い人間力を体得できる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			50%	50%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

プレゼンテーション、提出物、フィールドワーク、自己開示とコミュニケーション、ゼミ活動への貢献度から評価する

■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	これからレポート・卒論を書く若者のために 第2版酒井 聡樹 著 共立出版 2017年07月08日	9784320005983
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		
2		
3		
4		
5		